

## H - 2 5 2 B ( C ) + P O S H システム T R N S 4 命令ご使用上のご注意

H - 2 5 2 B (または 2 5 2 C) C P U で P O S H を使用する場合、プログラムを作成する際、以下の点にご注意願います。

< プログラムを簡単にするには >

1 . P O S H に共通パラメータ、自動運転位置データを設定する場合

T R N S 4 をご使用すると H - 2 5 2 B C P U から P O S H に煩わしい通信のハンドシェイク処理を考慮する必要がないため、ユーザプログラムが簡単になります。

2 . 制御コマンド、表示コマンド、及び通信イニシャルコマンドの場合

運転の起動 / 停止を行う時、現在位置や内部データの読み出しを行う時、または通信イニシャル ( P O S H の通信リセット ) を行う場合は、通信のハンドシェイク処理が不要であるため、直接 P O S H のコントロールレジスタにコマンドを書込む方が便利です。

### 【プログラム作成上のご注意】

上記の特長より、両方を使用するとプログラムが容易になりますが、以下の点にご注意願います。

< T R N S 4 命令ご使用時のご注意 >

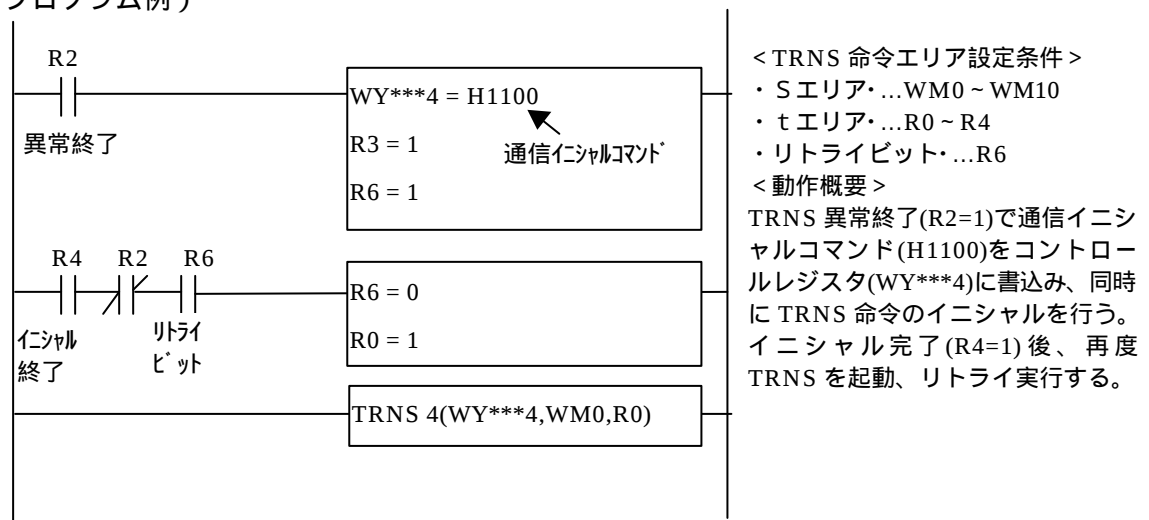
( 1 ) P O S H 上でコマンドエラー、データエラー、通信エラーが発生している場合

T R N S 4 命令でモジュール固有エラーということで T R N S 4 命令が正常に実行されません。

( 回避方法 )

直接 P O S H のコントロールレジスタに通信イニシャルコマンドを書込み、P O S H 上のエラーを解除します。同時に T R N S 4 命令のイニシャル要求ビット ( t + 3 ) を " 1 " にして T R N S 命令の初期化を行って下さい。

( プログラム例 )



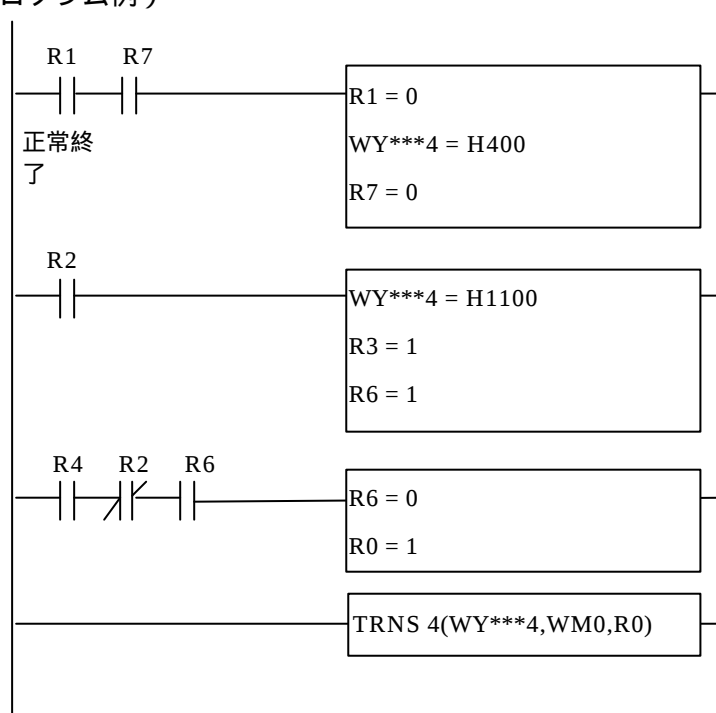
## ( 2 ) T R N S 4 命令完了後のコマンド発行の注意

T R N S 4 命令が正常終了直後の同一スキャン内で直接コントロールレジスタ ( WY\*\*\*4 ) にコマンドを書込むと、P O S H にコマンドまたはデータエラーが発生することがあるため、その次に起動される T R N S 4 命令が正常に動作しないことがあります。

### ( 回避方法 )

直接 P O S H のコントロールレジスタ WY\*\*\*4 ) にコマンドを書込む場合は、T R N S 4 命令が正常終了後、必ず次のスキャン以降に行って下さい。仮に異常終了になった場合は T R N S 4 命令を初期化後、再度 T R N S 4 命令を実行して下さい。

### ( プログラム例 )



#### < TRNS 命令エリア設定条件 >

- ・ S エリア・ ... WM0 ~ WM10
- ・ t エリア・ ... R0 ~ R4
- ・ リトライビット・ ... R6
- ・ 運転起動・ ... R7

#### < 動作概要 >

TRNS 正常終了(R1=1)で運転起動が入っていたら直接コントロールレジスタに制御コマンドを書込む。  
もし TRNS が異常終了(R2=1)なら通信インisialコマンド(H1100)をコントロールレジスタ(WY\*\*\*4)に書込み、同時に TRNS 命令のインisialを行う。  
インisial完了(R4=1)後、再度 TRNS を起動、リトライ実行する。

以上